



よこはま 支部だより

issue 2010.10.30

VOL. 52

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部

THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

CONTENTS

●支部通常総会報告① 平成22年度支部総会報告	p1
●支部通常総会報告② ～大野秀敏氏講演会～ ○技術情報委員会より	p2
●椅子づくりから学ぶこと ○技術情報委員会より	p3
●2010 真夏の夜の クルージング ○厚生委員会より	p4
●部会訪問 〈技術支援委員会福祉部会〉 「車いす体験研修会」	p5
●近代建築世界一周 No2 ～メキシコの旅～ ○桜本将樹	p6
お知らせ・編集後記	p8

編集 広報委員会
発行 社団法人 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当：大平

231-0011
横浜市中区太田町2-22 神奈川建設会館5F
TEL：045-201-1284 FAX：045-201-0784

平成22年度第17回通常総会報告

日時 平成22年6月19日(土)

会場 横浜情報文化センター7階

●出席者54名 委任状198名 合計252名

司会 中村 秀一

◆ 開 会 ◆ PM 2:00

- 1 支部長挨拶 南 利幸
- 2 議長選出 議長 南 利幸
- 3 議事
 - 1) 平成21年度活動報告

総務委員会	報告者 中村 秀一
厚生委員会	報告者 菊嶋 秀生
技術情報委員会	報告者 田中 克樹
広報委員会	報告者 大 貫 浩
 - 2) 平成21年度収支決算報告・監査報告

収支決算報告	報告者 今井 淳子
監査報告	報告者 酒井 康裕
 - 3) 平成22年度活動計画案 上記活動報告者に同じ
 - 4) 平成22年度収支予算案 上記決算報告者に同じ
 - 5) 役員改選 提案者 中村 秀一

全ての議事は議案書通り採択

- 4 来賓紹介

横浜市建築局長	鈴木 伸哉
建築士会会長	藤 田 武
事務所協会会長	名取 邦享
 - 5 来賓挨拶

横浜市建築局長	鈴木 伸哉
---------	-------
- ◆ 閉 会 ◆ PM 3:00

支部総会

(大野秀敏 氏 講演会)

2010年6月19日(土)

横浜情報文化センター



南 前支部長



山成 新支部長

今年の支部総会では役員改正がありました。

南 支部長から山成 支部長へ。人事が満場一致で承認され、新体制のスタートです。

恒例の講演会、今年は東大の大野秀俊先生でした。テーマは、「現在に接続する未来」。ほぼ満席の会場に、立ちっぱなしの大野先生の熱弁が、テンポよく進んでいきます。

まずは、「親父の仕事を否定するな」というキーワード。都市というものは本来、それぞれの時代に築かれた構築物（レイヤ）が積層された姿であるべきで、経済的な事情などから、なんでもかんでも、いったん白紙にしてしまう、現代の建築行為を強く否定。紹介された作品も、「再生」というコンセプトで行われたものがほとんど。会場のあちこちで、大きなうなずきが見えました。

次に、ニンテンドーDSを例に説明された「過疎地対策」は圧巻。医療、図書、などの行政サービス（コンテンツ）を、それぞれバスのような車両に組み込み、各村に置かれた建物（機能が万能な箱物）へ一週間単位で巡回させるというシステム。実際に長岡市で検討を始めているそうです。

環境問題に取り組むならばバスに着眼する。という構想は、横浜市でも使えそうです。電車のホームのように、停留所で乗換えができれば……。すでに構築されているバス路線系統は、とても有効でしょう。SUICA やPASMO で記録すれば、いちいち初乗り料金を取られずに済む日も近いかもしれません。

講演会のあとは懇親会。その後はさらに先生を連れて3次会へ。話はだんだん柔らかい話へ変わり、最後は「ヨガ」の話題で盛り上がり。かつこよすぎる大野先生の実は気さくな性格に、委員一同が酔いしれた1日でもありました。

(技術・情報委員会 田川尚吾)



椅子づくりから学ぶこと

(技術情報委員会 櫻田 修三)

「椅子を創る」という連続講座の開催には、2年かかってしまった。2年近く、お待ちいただいた講師の小田原健先生には、大変感謝しております。小田原先生との出会いは、15年程前になります。当時、横浜市都市デザイン室の係長で、昨年12月急逝いたしました北沢猛東京大学大学院教授から、「横浜で風倒木を使って家具製作をしているデザイナーがいるのでご紹介します」ということでお会いしたのが始まりです。平成3年の台風19号が大分県日田地方を襲い、300万立方メートルの杉をなぎ倒しました。先生は、その風倒木をなんとか再利用しようと活動していた時期で、風倒木で作られたベットの写真を今でも覚えています。あの時、買っておけばよかったと今でも後悔しております。その思いが、ずっと心に残っていたので、今回の連続講座が、生まれたと思っています。

初めの企画は、実物の椅子を創る話からスタートしたが、場所はどこで？工具はどうするの？とか色々課題が出てきましたが、実物ではなく模型でもいいのではないかと小田原先生からもアドバイスを受け、いっきにこの講座の企画が固まった。

1回目は「椅子を知る」、2回目「椅子のスケッチを描く」、3回目「椅子の製作図面を描く」、最後の4回目で「1/5の模型を作る」という連続講座が誕生した。

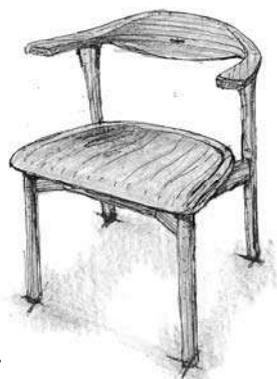
その時、小田原健先生から、次のような快諾のFAXをいただく。

『ごふさたしています。「椅子を創る」テーマ嬉しく思います。椅子は総合的な感性を必要とします。21世紀の建築家の教育に大切です。建物は家具の配置（機能）の結果です。（収納、椅子、作業台、テーブルが生活です）近いうちにお会いして準備をしましょう。』

9月10日の1回目の講座は、おおいに先生の人となりを知って、強烈な刺激を受けたのではないのでしょうか。子どもの頃に、タバコ「ピース」の箱のデザインをしたレイモンド・ローウィの一冊の本を読んで、感動して、デザイナーを志したという。私の子ども時代とずいぶんと違うことに衝撃を受ける。しかも、デザイナーになるためには、どのような能力が必要なのかを考え、デッサン力、設計製図の書き方などを父親から特訓を受けたという。更に、ものづくりの基礎を学ぶために、師となる職人を探した。そこで運命の出会いをする。「昭和の左甚五郎」といわれた木工の名人親方に弟子入りし、超一流の技とお施主に習う。そこで吉村順三東京芸大教授と出会い、長い交流が始まる。

その吉村先生からは、『住宅を建てる予定地に行くと、先生は、敷地周りの景色をみながら、ここに椅子を置くと、いい景色が良く見えるだろうといえます。まず椅子や家具のレイアウトを、現地を見ながらまず決めるんですよ。家具の配置の結果が、家なのですよということを教わりました。』

椅子は居心地をデザインする。やさしく支えてくれる椅子はあなたのパートナー。『さて、あなたなら、どんな椅子に座りたいですか』



椅子のスケッチ



講演の様子

2010真夏の夜のクルージング

(厚生委員会 小田川友子)

9月3日は、相変わらず記録的な暑さの夏の日でした。

その日の午後7時、横浜「ぶかり棧橋」から船に乗って出発する「夏の夜のクルージングパーティ」が今年の横浜支部の夏の納涼会でした。参加者は約40名、タイクーンのアジア風のビュッフェ料理とフリードリンク。

船に乗ると、特別に用意されたウェルカムドリンクとしてスパークリングワインのグラスが一人一人に手渡され、山成新支部長のごあいさつ。続く乾杯のあと、ひとまず腹ごしらえ。その間、船はみなとみらいの海側からの風景を満喫できるように波に揺られながら停泊していました。

その後、エンジンをかけた船は、大黒大橋をくぐり一気に臨海工業地帯のあたりまで出てゆきました。グラスを片手に、はしごのような急な階段を上ったり下りたり、デッキと船内とを行き来しながら、参加者は皆思い思いに楽しんだ様でした。

遠くの台風の影響で船は心地よく揺れるし、黒い海面には吸い寄せられる。海上から見るみなとみらいの夜景はもちろん美しかったし、デッキにのぼると強い風も暑さのあとではとても気持ち良く感じられました。みなとみらい地区から外れていく開放感の中で、しばらくぼーっとする時間は予想以上によかったです。



技術支援委員会福祉部会 「9/11 車いす体験研修会」

9月11日（土）、NHK「首都圏ニュース845」にて、「建築士が車いすの講習会」と題し、研修会の模様がテレビ放映されました。

◆REPORT◆ 「車いすについての学習と体験会」に参加して

（記：熊澤 徹）

横浜市総合リハビリテーションセンターで行われた体験会に参加させて頂き、電動式も含め色々なタイプの車いすに試乗する事が出来ました。

率直な感想としては、「乗って見なければ分からない」という事です。

車いすは電動式、自走式の標準タイプ、介護用タイプ、6輪式、スポーツタイプ、リクライニング式等色々なタイプがあり、それぞれに特徴がありました。

最初に標準タイプに乗らせて頂き、屋外のスロープ、歩道に行きましたが、なかなか真直ぐに進みません。歩道に水勾配がある、左右の手の力のバランスが悪い等が原因でした。また、スロープは1/12程度でも登るのには力が要りますし、下りはブレーキを掛けながら下りなければ思った以上にスピードが出て、強く握り過ぎると車輪がロックします。

次に室内に入り、狭い通路、段差を体験しました。車いすは幅600mm程度ですが、当然の事ながら腕の方が外に出ますので有効幅約800mmで一杯で、直角に曲がるのは至難の業です。段差は20mmで簡単に上がりません。上がるためには、前輪を浮かせるウイリーという技が必要です。前輪さえ段の上に乗せられれば主車輪も上がりました。車いすの方が後ろ向きで段差を越える時があるのはこの為だそうです。但し前輪を上げた時、体重が後ろに行き過ぎると車いすは後方に簡単に転倒しました。

電動式は1本のレバーで前後左右に移動させるので、微妙な操作が必要で慣れるのにはかなり時間が掛かるだろうと思いました。

試乗して見て、車椅子を乗りこなすのには今回の体験だけでは分からない、色々なご苦労があるだろうと感じました。

現在様々な施設でバリアフリーが要求され、今後はさらなる配慮が必要になってくると思います。今回の体験を今後の設計活動の中に生かし、より「人にやさしい」建物を設計して行きたいと思います。



研修会の様子



試乗体験の様子

近代建築世界一周（No. 2）—メキシコの旅—

【はじめに】

日本を出国後、3ヶ月に及ぶアメリカの旅を終えて、次に向かったのはメキシコでした。日本との生活習慣の違いも少ないアメリカと異なり、この刺激的な国メキシコでは旅の醍醐味を十分に味わうことができるのが楽しいところです。

【旅の行程】

旅の目的は、建築家ルイス・バラガンと構造建築家のフェリックス・キャンデラの作品をみて廻ること。訪れた町はバラガンの生地であるグアダラハラをはじめ、モンテレー、グアナファト、メキシコシティの4ヶ所でした。遺跡巡りなどの観光を考えなければ、2週間もあれば十分にメキシコにある近代建築の傑作を堪能できます。

【交通・参考図書】

4都市間の移動は飛行機を利用し、各都市とも殆どの作品を地下鉄と徒歩で見学が可能です。バラガン財団から出版されている小さな本『Guide BARRAGAN』がバラガン初期作品から地図とともに掲載されており非常に便利でした。

【メキシコの色を発見】

ソチミルコはマリアッチ楽団の演奏を聴きながら、小さな運河で舟遊びをする地元の観光地です。その舟は非常にカラフル（写真①）で、メキシコの陽気な色彩感覚にふれることができます。さらに、グアナファトという町は小高い山に様々な色に塗られた住宅が密集する光景（写真②）が圧巻で、バラガンやレゴレッタの使う鮮やかな外壁の色を発見できます。

【メキシコ建築のベスト5】

アメリカと比較すると見学した作品の数は圧倒的に少ないのですが、それでもピックアップしたベスト5はアメリカに匹敵する重要な傑作ばかりとなりました。

1. カプチン派修道院 1980年（ルイス・バラガン）

メキシコシティのトゥラルパン（写真③）

建物の入口は白と黒、木製扉のコントラストが美しく感じますが、この壁面の向こう側にこの上なく美しい光に満たされた祈りの空間が存在することは想像できません。祭壇の左後方に取りられた黄色いステンドグラスからにじみ出る黄金の光が、祭壇をやさしく包み込みます。さらに祭壇右側の礼拝室からは、格子越しに、黄金の光を通して十字架を見ることができます。世界中の教会を見て廻りましたが、光の採り入れ方、効果的なレイアウトともに、類のない美しさと言えます。まさに教会建築の最高峰であることは間違いありません。



①ソチミルコの風景



②グアナファトの風



③カプチン派修道院 1980年(L・バラガン)



④ヒラルディ邸 1977年(L・バラガン)



⑤モンテレー現代美術館 1991年(R・レゴレッタ)



⑥F.カーロとD.リベラの家 1932年(J・オゴルマン)

2. ヒラルディ邸 1977年 (ルイス・バラガン)

メキシコシティ (写真④)

現在も住宅として利用されており、見学できるのは外観と1階部分です。玄関を入ると先に続く廊下が黄色い光で満たされており、そこは別世界です。廊下の奥には、上部から光が降り注ぐ水面が現れます。上部のスリット形状により、十字架の光

と影を水中に映し出している美しい光景は、自然の力でできたイタリア南部カプリ島の青の洞窟を髣髴とさせます。

3. モンテレー現代美術館 1991年 (リカルド・レゴレッタ)

モンテレー (写真⑤)

この建物の最大の魅力は、イベント用に計画された正方形のホール部分で、トップライトなどから拡散された繊細な光に満たされています。通常は壁から噴出す噴水により、ホールに20分毎に水が満たされます。静かな美術館のそのホールに、水が落ちるさわやかな音が広がります。水が止まると再び静寂に包まれ、水面の波紋だけが美しく広がっていきます。その幻想的な光景は、神聖な空気さえ感じるほどです。

4. フリーダ・カーロとディエゴ・リベラの家 1932年 (ファン・オゴルマン)

メキシコシティ (写真⑥)

メキシコの旅の中、予想を超える驚きを感じたのがこのアトリエ兼住宅の作品。ピロティ、空中歩廊、ブリーズソレイユなど、ル・コルビュジェの唱えた5原則をはじめとする近代建築の造形言語が盛り込まれています。鋸型の屋根はル・コルビュジェ作品である、竣工期のオザンファンのアトリエ (1924年) に見ることができますが、その形状をこのメキシコの地で見ることができます。知られざる近代建築の傑作です。

5. サンタ・モニカ教会 1960年 (フェリックス・キャンデラ)

メキシコシティ (写真⑧)

HPシェル構造の大家キャンデラのシンプルで美しい建物は、ソチミルコの運河沿いにあるレストラン・ロス・マナンティアレス (写真⑦) ですが、内部の空間の面白さとしては、この教会が挙げられます。1本の柱がその上部でいくつもの梁に分散されてそのまま屋根から壁面へとつながっていきます。その梁の隙間から降り注ぐ自然光が、祭壇背後にやわらかい光をつくり出し、神聖な雰囲気をかもし出しています。メキシコシティではこうしたキャンデラ風の無名の教会が数多く見られます。

その他、メキシコ国立自治大学諸施設の美しい作品群、バラガン自邸、バラガン初期のモダニズムの作品群 (写真⑨) と挙げればきりがありませんが、特筆すべきは、街中で出会う普通の住宅群です。住宅街を歩いていると大胆な構成の美しいプロポーションの住宅 (写真⑩) が次々とあらわれてきます。メキシコでは、近代建築が早々に取り入れられ、成熟していたものと実感できます。



⑦ ロス・マナンティアレス 1957年 (F・キャンデラ)



⑧ サンタ・モニカ教会 1960年 (F・キャンデラ)



⑨ オロツコ邸 1937年 (ルイス・バラガン)



⑩ グアダハララの住宅 (作者不明)

建築士会会員 桜本将樹

参考文献『近代建築世界一周』ADP 出版 桜本将樹

行政からのお知らせ

●横浜市からのお知らせ

「横浜市狭あい道路の整備の促進に関する条例施行規則」が一部改正され、平成 22 年 10 月 1 日より施行されました。主な改正点は次の通りです。

1) 手続き規定の改正（整備完了時の提出書類の追加）

- ・ 整備行為費用に関する申告書及び契約書の写し
- ・ 整備行為費用に関する支出を証する書類またはその写し
- ・ 移設した整備支障物件または築造した擁壁の数量が記載された図面

2) 助成金額の改正

- ・ 算出方法改正（別表(※)により算出した額の範囲内で整備行為に要した費用の額）
- ・ 助成金額改正（別表(※)単価を実勢価格へ改正、工事等雑費の廃止）

（※横浜市狭あい道路の整備の促進に関する条例施行規則別表）

詳細については、「横浜市狭あい道路の整備の促進に関する条例施行規則」、及び下記ホームページを参照ください。

◇整備事業概要はこちら

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenchiku/center/doro/kyoai/kyoai/>

◇改正についてはこちら

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenchiku/center/doro/kyoai/kyoai/20100917162116.html>

【問合せ先】横浜市建築局建築道路課（狭あい道路等担当）TEL 045-210-9880

広報委員会からのお知らせ

○横浜支部ブログへの投稿をお待ちしております！！

支部へのご要望、支部だよりについてのご意見など、なんでも結構です。

なお、ブログへ書き込む際は、以下の ID・PW をご使用ください。

ID : yokohama-sibu 、 PW : blog4us

（ブログアドレスはこちら : <http://blog.goo.ne.jp/yokohama-sibu>）

編集後記

早いもので、今年もすっかり秋の気配が漂う季節となりました。今年の酷暑は過去に類をみなかったそうですが、季節の変わり目に体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。今年もあと少し、頑張って乗り切りましょう。

今年の支部総会も無事終了し、新支部長も誕生するなど、支部として新たなスタートが切られました。前任の南支部長をはじめ、今回の人事で役割を終えられた皆様、本当にご苦労様でした。

編集 広報委員会

編集スタッフ（あいうえお順）

雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫 浩・桶師徳行・田川尚吾・玉野直美・丸山幸一